

自ら考え，表現する力を育てる指導と評価の研究

ポートフォリオを取り入れた活動を通して -

高校教育研究会議

佐藤 栄寿¹

落合 潤子²

金子 育世³

齋田 英二⁴

要 約

携帯電話などのコミュニケーション手段が多様化し，今の高校生は，簡単に友達との会話や連絡ができるようになった。その反面，人と直接会って話をするのが減り，ものを深く考えたり，自分の意見や考えを表現したりする機会が少なくなっている。

本研究会議では，「自分を見つめ，現在や将来の在り方生き方について考えるとともに，自分の考えをもち，それを表現する力を育てることが重要である」と考え，その指導と評価について研究を進めることにした。「総合的な学習の時間」において，生徒が主体的に取り組むような活動を展開しながら，学習の過程で収集した資料や記録をファイルに保存していくという「ポートフォリオ」を活用し，教師の評価や相互評価などの情報をもとに，自分の成長したところや身に付けた力を自己評価していくという評価方法を取り入れて，3校の市立高等学校で授業実践をした。

ポートフォリオを取り入れた活動を通して，生徒は，自分の意見や考えを表現することの重要性に気付いたり，自分の成長を見つけたりすることができた。教師は，授業の様子や生徒の自己評価により，個々の学習状況を把握しながら，肯定的な支援をすることができた。ポートフォリオの有効性を明らかにしていくことで，自ら考え，表現する力を育てる指導や評価についての方向性が見えてきた。

キーワード： 表現する力，ポートフォリオ，自己評価，教師の評価，相互評価

目 次

主題設定の理由	38	研究のまとめ	50
研究の内容	38	1. 自ら考え，表現する力を育てる	
1. ポートフォリオについて	38	指導について	50
2. 「総合的な学習の時間」の評価と ポートフォリオについて	39	2. ポートフォリオを取り入れた 活動を通して	51
3. ポートフォリオを取り入れた 活動について	40	3. 今後の課題	52
4. 研究のねらい	41	参考文献	52
5. 研究の方法	41	指導助言者	52
6. ポートフォリオを取り入れた 授業実践	42		

¹川崎市立川崎高等学校教諭（長期研修員）

²川崎市立橘高等学校教諭（研修員）

³川崎市立商業高等学校教諭（研修員）

⁴川崎市立川崎総合科学高等学校教諭（研修員）

主題設定の理由

さまざまな情報があふれ、時間に追われる今日、今の高校生は、その情報の影響を受けずに、「自分の考えや意志をしっかりともち、自分を表現する」ことができるのだろうか。携帯電話やインターネットなど、コミュニケーション手段が多様化し、簡単に友達との会話や連絡ができるようになった。その反面、人と直接会って話をするのが減り、ものを深く考えたり、自分の意見や考えを表現したりする機会が少なくなっている。

国際化や情報化が進む現在、自分の考えをもち、それを表現する力を身に付けていくことが求められている。自分の進路を考える上でも、自己の個性を理解し、現在や将来の在り方生き方について自分の考えをもつことは大切である。

高等学校学習指導要領では、自ら学び考える力などの「生きる力」の育成を目指しており、生徒の主体的な活動を中心とした授業を展開することが期待されている。「総合的な学習の時間」のねらいにおいて、高等学校の段階では、「自らの意見や考えをもち、論理的に表現したり、相手の立場を尊重して議論したりする力、自己の在り方生き方について考え、主体的、自律的に学ぶ力を身に付ける」¹⁾ことが求められている。また、評価の在り方については、指導の結果だけでなく、指導の過程における生徒の学習に対する努力や意欲を評価し、生徒の学習意欲の向上に生かすようにすることが重視されてきている。

本研究会議では、「生徒が、自分を見つめ、現在や将来の在り方生き方について考えるとともに、自分の考えをもち、それを表現する力を身に付けていくことが重要である」と考えた。

今回の研究では、「総合的な学習の時間」において、自分の考えや伝えたいことを表現する力を育てるために、ポートフォリオを取り入れた活動を通して、生徒一人一人の学習状況を把握しながら、生徒たちの学習を指導・支援していきたいと考え、次のように主題を設定した。

自ら考え、表現する力を育てる指導と評価の研究
ポートフォリオを取り入れた活動を通して

研究の内容

1. ポートフォリオについて

ポートフォリオとは、生徒自身が、学習の過程で収集した情報や資料などをファイルし保存していくものである。授業で扱ったプリントや学習した記録などを保存していくだけではなく、自分の学習を振り返って評価したものも、ファイルに入れていくのである。好きなものを集めて、ファイルに入れていくだけでは、ポートフォリオとはいえないのである。

本研究会議では、生徒のファイルの中に、「生徒の学習の目標や計画表、学習の記録、学習プリント、自己評価用紙、友達からの相互評価用紙、教師のコメント、生徒が集めたり調べたりした資料など」を、時系列にとじさせて、これを、「ポートフォリオ」として、活用することにした。

生徒が自分でこれを学びたいという目的をはっきりともち、その目的に沿った資料や情報を集めていくことができる。その日の授業の資料や記録したもの、学習プリント類などをファイルに入れていけば、学習の過程を生徒が確認することができる。自分の学習を振り返って自己評価を行い、考えた

¹⁾ 文部省「高等学校学習指導要領解説 - 総則編 - 」東山書房 1999年 p.134

こと、感じたことなどを記録していけば、日々の変容や成果を目に見える形で残すことができる。以上のようなポートフォリオのとらえ方を図示すると、図1のようになる。

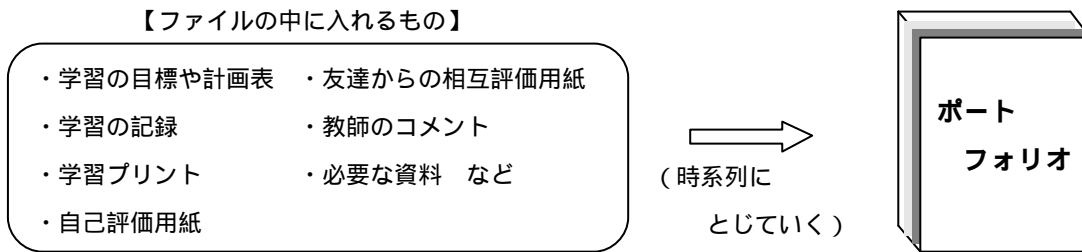


図1 ポートフォリオのとらえ方

2. 「総合的な学習の時間」の評価とポートフォリオについて

「総合的な学習の時間」の評価については、平成10年7月に中央教育審議会の答申において、「教科のような試験の成績によっては数値的に評価することはせず、活動や学習の過程、報告書や作品、発表や討論などに見られる学習の状況や成果などについて、児童生徒のよい点、学習に対する意欲や態度、進歩の状況などを踏まえて適切に評価すること」と示されている。

評価の方法としては、高等学校学習指導要領解説総則編の中で、参考となる事項が次のように提示されている。²⁾

評価の方法としては、例えば、レポート、論文、作品などの製作物、発表や討論の様子などから評価したり、生徒の自己評価や相互評価を活用したり、活動の状況を教師が観察して評価したりするなどして、学習に対する意欲や態度、思考力、判断力、表現力、活動の過程で進歩した点などを適切かつ総合的に評価する。

学習の過程で生徒の進歩の状況を把握するためには、学習活動の内容の資料や記録、生徒の成長を知ることができるような記録などを残していく必要がある。生徒自らが自分の学習を振り返って成長したところを見つけたり、教師が生徒の学習状況を把握したりするのに、ポートフォリオを取り入れることは有効であると考えた。

ポートフォリオを取り入れた評価方法(図2)とは、生徒が、学習活動のどの部分で、どのようなことを学んだのか、そしてどのように成長をしたのかなどを、ポートフォリオを使って振り返り、自己評価をしていく方法である。評価の観点や評価規準については、事前に教師と生徒で確認しておく。生徒は、友達からの相互評価や教師の評価などの情報を受けながら、どのような力が身に付いたのかを自分自身で見つけて、次の学習を進めていく。生徒が自ら学び、活動を振り返って、自らを評価していくという考え方で、生徒主体の評価とすることができる。

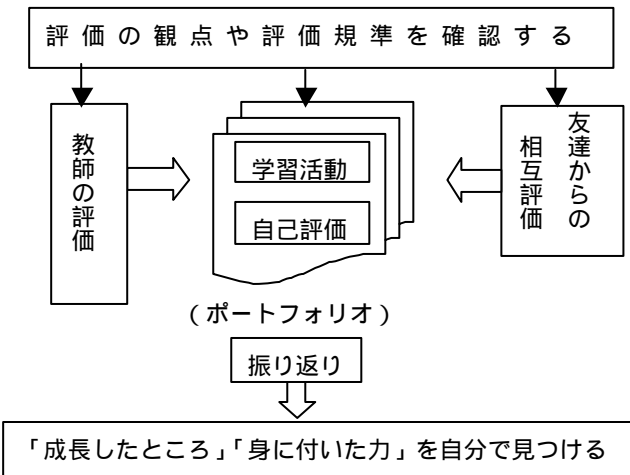


図2 ポートフォリオを取り入れた評価方法

本研究会議では、ポートフォリオを取り入れながら、自己評価や相互評価、教師の評価などを活用して、生徒の自己の在り方生き方についての考えを深めさせるとともに、生徒の学習に対する意欲や態度、進歩の状況などを把握し、生徒の活動に支援を行っていくことが重要であると考えた。

²⁾ 文部省「高等学校学習指導要領解説 - 総則編 - 」東山書房 1999年 p.144

3. ポートフォリオを取り入れた活動について

自ら考え、表現する力を育てる指導として、図3のような学習過程を考えた。生徒が課題を設定し、体験や実習、ものづくりを通して、主体的に追究していく過程で、ポートフォリオを取り入れて、学習の記録や必要な資料を保存していくことにした。

学習の過程において、生徒は、毎時間の学習状況を振り返り、自己評価をしていながら、学習の成果をまとめ、発表し、自分の成長したところや身に付いた力を見つけていく。教師は、ポートフォリオを通して、生徒の学習状況を把握しながら指導・支援を行っていく。

本研究会議では、表1のような活動内容で、ポートフォリオを取り入れて、生徒が主体的に取り組むような授業を展開することにした。

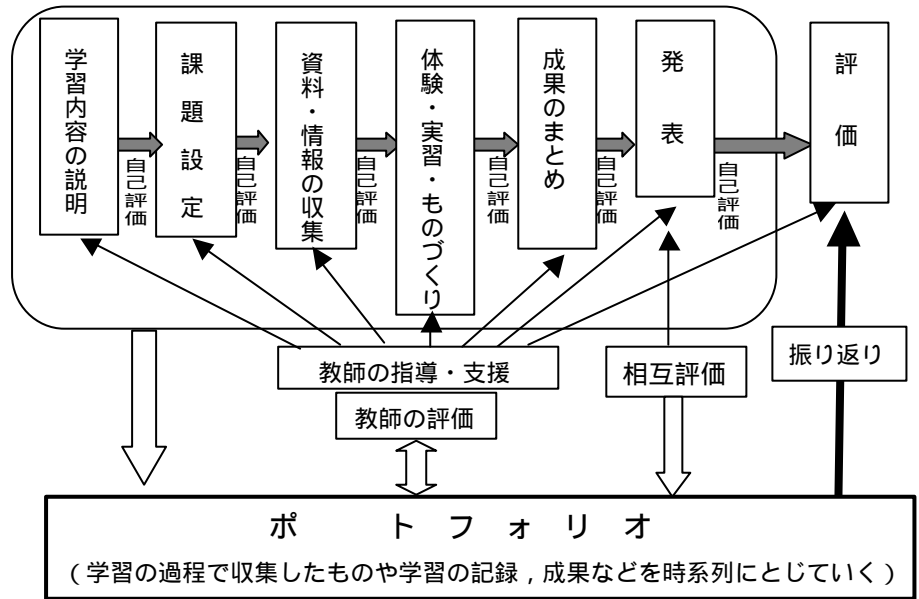


図3 ポートフォリオを取り入れた活動の学習過程

表1 ポートフォリオを取り入れた活動内容

活動の過程	学習内容	教師の指導・支援	ポートフォリオに入れるもの	自己評価の観点
学習内容の説明	学習内容や全体の流れの確認をする。	学習の目標を説明しながら、最終のゴールをイメージさせる。	学習の目標や進め方 評価の観点や規準 自己評価用紙 など	学習の目的や内容が理解できたか。 学習の進め方が理解できたか。
課題設定	課題を見つける。 目標や目当てを立てる。	学習の目標を考えさせながら、自分の課題を設定させる。	自分の学習目標 課題設定とその理由 学習の計画表 自己評価用紙 など	興味・関心のあるものか。 意欲的に取り組めるものか。
資料・情報の収集	課題について調べる。 必要な資料を集める。	課題について必要な資料を考えさせる。	必要な資料・情報（本やインターネットなどで集めたもの） 自己評価用紙 など	何のために調べるのか。 目標に沿った活動をしているか。
体験・実習・ものづくり	目標達成に向けて活動をする。	個々の生徒に助言やアドバイスをして、自分で考えて取り組ませる。	活動の記録 作品などの写真 自己評価用紙 など	課題解決に向けた活動であるか。 意欲的に取り組んだか。
成果のまとめ	学習の成果をまとめる。	いろいろな表現方法を考えさせ、工夫してまとめさせる。	学んだことや反省点などの記録 自己評価用紙 など	伝えたい内容をわかりやすくまとめたか。 見やすく、工夫したか。
発表	学習成果の発表をする。	発表についての自分の目標を立てさせて、発表させる。	発表の目標 相互評価用紙 自己評価用紙 など	自分の意見や考えを伝えたか。 工夫して発表したか。
評価	学習活動を振り返り、自己評価をする。	友達や教師の評価を受けながら、自分の活動を振り返らせ、自己評価をさせる。	観点別自己評価用紙 学習を振り返っての自己評価用紙 教師からの評価 など	自分の成長したところを見つけることができたか。 次の学習に生かすことができるか。

4. 研究のねらい

「総合的な学習の時間」において、「自ら考え、表現する力」を育てるために、生徒が主体的な態度で取り組むような授業を展開しながら、ポートフォリオを取り入れた活動の有効性を明らかにする。

5. 研究の方法

(1) 研究の進め方について

次のような内容で、3校の市立高等学校にポートフォリオを取り入れて、授業を実践した。

生徒は、自分のファイルに必要な資料や学習プリントなどを、時系列にとじていく。
 学習の過程で、学んだことや感じたこと、反省点などについて、毎時間の自己評価を行っていく。
 自分の学習の成果をまとめ、発表をして、相互評価を行う。
 ファイルを使って学習活動を振り返り、成長したところや身に付いた力について、自己評価をする。
 教師は、生徒の学習の様子を観察したり、ポートフォリオを使ったりして、生徒の活動を指導・支援していく。

以上のような活動を通して、「自ら考え、表現する力」を育てるために、ポートフォリオを取り入れた活動の有効性について考察をしていくことにした。

(2) 各学校の取組の内容について

各高等学校の取組については、実施時期や題材テーマ、ファイルの種類、表現活動などを考えて、次のような内容で実践した。

学 校	A高校	B高校	C高校
科目名等	課題研究 } (1月)	特別活動	総合的な学習の時間
学 年	3学年(全日制)	1学年(定時制)	1学年(定時制)
題材テーマ	班別の課題研究	「自分を見つめる」	「和菓子を作ろう」
実施時期	4月～2月	6月～7月	9月～12月
授業時間	全70時間	全8時間	全8時間
使用したファイル等	フロッピーディスク	2穴式ファイル	クリアファイル
ポートフォリオの主な中身について	<ul style="list-style-type: none"> 毎時の自己評価用紙(授業で取り組んだ内容、授業で学んだこと、次回の課題について) 設計のための図面 話し合った記録 活動での記録(写真) など 	<ul style="list-style-type: none"> 授業でのプリント 自分に関する資料(趣味、特技、関心があるものなど) 毎時の自己評価用紙 友達からの相互評価用紙 など 	<ul style="list-style-type: none"> 授業でのプリント 和菓子の資料(インターネットや本で調べたもの) 毎時の自己評価用紙 友達からの相互評価用紙 など
活動内容	グループ毎にテーマを設定し、作品の完成、発表、報告書の作成などを行う。	自分の得意なことや趣味などを発表用のパネルを作って友達に伝える。	「和菓子を作ろう」の講座を希望した生徒が、自作のお菓子について紹介ボードを作って友達に報告する。
主な表現活動	<ul style="list-style-type: none"> 中間発表 (7月) 最終発表 報告書作成 	<ul style="list-style-type: none"> パネルの作成 グループ内での発表 	<ul style="list-style-type: none"> 紹介ボードの作成 発表

6. ポートフォリオを取り入れた授業実践

(1) A高校における授業実践 - 「課題研究」 -

活動の目標

- (1) 主体的に課題を設定し、計画を立て、製作、発表などをしていく上で、諸問題を解決する手段等を学習する。
 (2) 今までに学んだ実習・実験・製図の学習を更に充実させる。
 (3) 卒業後の社会生活において、当面する多くの課題に対する解決力および応用性のある知識や技術を身に付ける。
 (4) 将来に活用することのできるような意義のある研究成果を上げる。

活動の流れ(全70時間)[3年次に2単位として実施]

活動の過程	学習内容	指導・支援	評価の観点	評価方法
学習内容の説明 (4月)	学習のねらいを聞く。 グループの決定をする。	ねらいやテーマについての説明を行い、活動の意欲を図る。	意欲・態度	観察法 自己評価
課題設定 (4月)	テーマの決定をする。 計画を立案する。	興味・関心のある可能なテーマを設定させる。	意欲・態度	観察法 自己評価
資料・情報の収集 (4~5月)	本やインターネットで資料を収集する。	必要な資料についてアドバイスをする。	意欲・態度	観察法 自己評価
体験・実習・ものづくり (5~6月)	研究テーマに沿って活動をする。	専門的な知識や技術などの助言を、必要に応じて行う。	意欲・態度	観察法 自己評価
中間発表 (7月)	テーマや取組の状況等を報告する。	活動を振り返り、改善点などを出し合わせる。	表現する力	自己評価 相互評価
成果のまとめ (8~12月)	作品を完成する。 発表の準備をする。	問題点や課題を考えさせる。 リハーサルの実施を行う。	意欲・態度	観察法 自己評価
本発表 (1月)	研究の成果を発表する。	伝えたいことをまとめさせる。 発表の工夫を考えさせる。	表現する力	自己評価 相互評価
評価 (2月)	報告書の作成をする。 活動の反省をする。	活動を振り返り、自分の成長を発見させる。	まとめる力	自己評価

評価の観点と評価規準について

次の3つの点を基本的な考え方として評価を行っている。

- (1) 生徒の取り組む態度を重視し、問題に向かって努力する姿勢を評価する。
 (2) 活動の過程を重視し、失敗したり、完成しなかったりしても、その原因を追究する態度を評価する。
 (3) 生徒一人一人の長所を見つけて評価する。

また、右のような評価の観点や評価規準をもとにして、各研究グループの担当教諭が評価を行い、総合評価の参考としている。

総合評価について

「課題研究」は必修科目であり、10段階評価による評定を行っている。評定の算出方法については、各観点を10点満点として数値化し、その合計を出して、平均を求め、小数点以下は四捨五入して、評定をつけている。

評価の観点	評価規準
意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して計画的に進めている。 ・課題に必要な資料や情報を集めて取り組んでいる。 ・問題点を見つけながら解決しようと努力している。 ・創意工夫をしながら取り組んでいる。 ・お互いに協力して取り組んでいる。 ・既習の知識や技術を生かして積極的に取り組んでいる。 ・個人の得意な分野を生かして積極的に取り組んでいる。
まとめる力	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的、継続的に課題を追ってまとめている。 ・調査・研究などの内容をわかりやすく整理している。 ・自分なりに工夫して独創的にまとめている。
表現する力	<ul style="list-style-type: none"> ・発表のための十分な準備を行っている。 ・研究内容をわかりやすくまとめて発表している。 ・発表方法にアイデアや工夫がある。 ・研究内容を十分理解して発表に臨んでいる。

着目グループについて

ア 「研究テーマ」と「活動目標」について

研究テーマ	伸縮式原動機付き自転車の製作
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータで「CAD」から始めて図面を作成できるようにする。 ・今までに使用してきた旋盤等の機械を全員が操作できるようにする。 ・原動機付き自転車の特性及び構造を解体と組立により把握する。 ・強度計算などの学習を通して、設計に関する技術を身に付ける。

上記のような「研究テーマ」や「活動目標」で取り組んでいるグループ（男子6人，女子1人）に着目することにした。そのグループの活動の様子や発表内容，ポートフォリオなどから，生徒たちの変容について考察をしてみる。

イ 着目グループのポートフォリオと活動の様子について

【学習の内容】	【着目グループのポートフォリオより】	【教師の指導・支援】
4月 テーマ決定 資料収集 解体作業	「バイクは人々の生活をよくしたり，労働力の削減に努めてきたりしたのがよく分かった。」「コンピュータで資料や情報を整理する人とバイクの解体をする人に分担して取り組みました。」	原動機付き自転車に関する知識を学習することから取り組ませる。
5月 フレーム形状 の話し合い	「何を誰がやるのかを確認するために，最初にミーティングをすることにしました。やるのとやらないとは全然違います。」	フレームの原案や強度などについて，アドバイスをする。
6月 設計図の製作 フレームの強度計算 モデルの製作	「予定よりかなり遅れている。」 「仕事を分担して責任をもって取り掛かりたい。」 「メンバーのよくない点が見えてきたので，お互いに話し合い，今後の展開を乗り越えていけるようがんばりたい。」	強度計算の方法やCAD製作方法について確認させる。各自で何ができるのかを考えさせる。
7～8月 図面製作 フレームの話し合い	「いろいろな問題が見つかり，前に進むことはできませんでしたが，みんなの協力でそれほど時間はかかりませんでした。」 「夏休みで学んだことはCADです。手書きの図面からCADまでほとんど手がけました。簡単に使いこなせるようになりました。」	1学期の反省をもとに，2学期の活動の見通しを立てさせる。
9月 メインフレームの製作 ハンドルの製作	「作業中，問題点が見つかり，直すところがあって遅れ気味になっているのが心配です。」「もっとみんなで作業を分担して，ペースをあげたい。」 「一つの作業に人員を使いすぎたので，無駄な面もあった。」	問題点や修正するところを確認させて，作業を進めさせる。
10月 エンジン，サドル などの取り付け	「この頃，班員の行動が把握できていない。自分の活動が何なのかも知っておく必要がある。」 「バイクの完成が課題研究の終了だと思わないこと。」	話し合いの時間をとり，作業分担や今後の進め方について確認をさせる。
11月 走行テスト 活動記録のまとめ	「今日は，みんなが得意な分野で素早く動いて，作業を終わらせていたので，スムーズに進んだ。」「エンジンがかからない。何が原因なのかかわからない。全然，前に進むことができない。」	バイクが走行できるための解決方法を考えさせる。
12月 発表準備 報告書の作成	「バイクが完成したとあって，みんなやる気に満ちていて，充実した実習だった。気を抜かないように気をつけていきたい。」 「発表では映像を見せたい。準備していくうちに，失敗点がたくさんあった。」 「発表では，研究の中のどこを発表するのかを班で相談していく必要がある。」	一番伝えたいことは何なのかを考えさせる。

ウ 中間発表と本発表について

中間発表（7月2日）	本発表（1月21日）
時間：約15分間（質疑応答の時間を含む） 内容：活動目標，進行状況，今後の予定など 方法：ODC，報告用紙（A4用紙1枚）	時間：約30分間（質疑応答の時間を含む） 内容：テーマ設定理由，取組過程，研究の成果など 方法：パワーポイント，報告用紙（A4用紙1枚）
【友達からの相互評価】 ・記録の保存がすごい。 ・資料がたくさんまとめてあり，写真もあって見やすかった。 ・記録のとり方を見習っていきたい。 ・チームワークがすごくよかった。	【友達からの相互評価】 ・発表に対する受け答えがよくできていた。 ・実験結果がすごい。作品やチームワークも良かった。 ・伸縮するための配線がうまく固定できていなかったのが，残念だ。 ・目標通りの伸縮式の原動機付き自転車が出て，さらに問題点の改善についての説明もあり，素晴らしい発表だと思った。
【自己評価】 ・質問されると誰が答えていいかわからず戸惑った。 ・伝えたいことは説明できたが，早口になってしまった。 ・質問に対してうまく答えられなかったのがやしい。 ・みんなが今後も意欲をもって取り組んでいきたい。	【自己評価】 ・十分な準備をして発表を行うことができた。 ・発表方法にアイデアや工夫をもって行うことができた。 ・研究内容を十分理解して発表に臨むことができた。 ・調べたことや研究の成果などを見やすくまとめることができた。

「課題研究」を振り返っての自己評価と教師の評価

生徒は，取り組んできた活動を振り返り，活動の成果や成長したところなどについて自己評価を行った。教師は，課題に取り組んでいる様子を観察したり，研究の成果や生徒たちの自己評価を組み合わせたりしながら，総合的に判断をして生徒たちの評価を行った。着目グループの生徒たちの自己評価と教師の評価について，ポートフォリオより引用したものをいくつか挙げてみる。

生徒	生徒の自己評価	教師の評価
Aさん	自分で考え，行動することを覚えました。作業の適性についても知りました。他の人との協力の大切さも理解しました。協力すれば難しい作業の解決に2倍の速さで臨めます。物事に対してやり抜く大切さも知りました。ものとしては残らないが，多くのモノを手に入れました。	機械加工を担当し，溶接・旋盤・フライス盤と常に率先して取り組んだ。数多くの部品を作り，技術が著しく向上し，自信もつけた。班員とも協力でき，困難な作業でも進んで積極的に行っていた。進路においても，課題研究の成果を生かし，進学の面で自分の力を十分に発揮することができた。
Bさん	毎回ミーティングをしていくことで，作業の進み具合が一目で分かるし，他の人が何をしているのかが分かるので，自分で考えて行動できるようになったと思います。また，活動をレポートにまとめることや，見やすく短くまとめる技術がついたと思います。	資料のまとめを中心に行い，コンピュータの扱いをマスターできた。班員の行動を把握し，ミーティングを取り入れたことで，個々が話し合うことで班のまとまりができた。溶接にも取り組み，技術力もついた。班員を和ませ，団結力を高める役割を果たした。
Cさん	私は何かを製作しているよりも，何を製作するかを考えることのほうが向いていると思います。自分で，「こうすれば効率がよい」というように考えられるようになりました。また，客観的に自分や周りを見ることを覚え，みんなを納得させるにはどうすればよいかなどがわかりました。	設計とCADを担当し，強度計算から図面書きの一番重要な箇所の作業を行い，素早く使いこなせるようになって自信をつけた。困難なことも粘り強く取り組むようになり，創意・工夫・協調性において向上したと思われる。発表においても中心となって取り組んだ。

着目グループの変容について

活動の様子や各自のポートフォリオから，次のような点で変容を見ることができた。

第一として，ミーティングを取り入れ，取組内容を確認しながら活動するようになった。最初は，作業をする班と資料や文書などをまとめていく班に分かれて取り組んでいた。その後，「どこまで進んでいるのか。」「何を行えばいいのか。」など，お互いの進行状況がわからなくなってきた。5月の授業からは，活動の初めにミーティングを取り入れ，その日の作業内容や分担を決めて取り組むということ始めた。「お互いの進行状況が分かる。今日やる事の再確認ができる。正確に確実に作業が進む。グループのまとまりができる。」などのミーティングのよい点を，生徒たちは，ポートフォリオに記述

していた。みんなの意見を聞き、その日の活動内容や分担を決めたり、取組の過程で発生する問題点について話し合ったりすることで、ミーティングを取り入れることの大切さを学んだものとする。

第二は、授業で学んだことを生かし、次回の課題に向けて、自分たちで考えて取り組むようになった。最初の頃の自己評価用紙には、授業についての感想が多かった。その後、グループの活動の進め方や自分が今やるべきことなどについて考えるようになり、それぞれの役割をもって取り組むようになった。8月以降は、「活動を振り返り、反省し、問題点を見つけ、それを解決していくためにはどうしていけばよいのか。」について考えている内容の自己評価となってきた。生徒たちは、活動を振り返りながら、自分たちが学んだものを次の学習につなげていくことができるようになったものとする。

実践を通して

ポートフォリオを取り入れた活動を通して、次の点で効果があったと考える。

第一に、毎時間の自己評価を継続的に行うことにより、自分を見つめる力を育てていくことができた。生徒たちは、ポートフォリオの中に、「その日の自分の活動を振り返り、自己評価をしていくことで、自分のことを見直すようになった。」と書いている。自分の得意なことや苦手なことを把握しながら、何を今すればよいのかが分かるようになってきた。自己理解をしていくことで、自己の在り方生き方について考えるようになり、自分を客観的に見るができるようになってきたと考えられる。大学入試の面接では自分をしっかりと表現することができ、進路の面でも生かすことができた。

第二に、フロッピーディスクに、活動した記録や調べた資料などを保存していくことで、レポートの整理や報告書の作成、発表などにとっても有効であった。生徒たちは、本発表で、活動の過程や研究の成果、問題点などを、ビデオカメラを使ったり動画を取り入れたりしながら、工夫して発表することができた。また、報告書の作成では、課題研究で取り組んできた内容や各自が学んだことなどについて、保存してある資料等を振り返りながら、見やすく筋道を立ててまとめることができた。

(2) B 高校における授業実践 - 「自分を見つめる」 -

活動の目標

- (1) 「自分のよさ」や「自分はどのようなことができるのか」などについて、自分を見つめることを通して自己理解を深める。
- (2) 自分の伝えたいことをまとめて発表するとともに、友達の考えや個性を尊重し認め合うことの大切さを学ぶ。

クラスの様子については、いろいろな事情を抱えている場合が多く、精神的に弱い生徒が多い。自分を表現することが苦手で、他人の行動の様子を見ているという感じである。自己の存在をはっきりと確立していなければ他者の存在を受けとめることはできないだろうと考えた。そこで、自分についてしっかりと見つめ、自分を表現する力を身に付けることが生徒たちにとって必要であり、発表を通して自信をつけさせたいと考え、「自分を見つめる」学習を取り扱うことにした。

活動の流れ(全8時間)

活動の過程	学 習 内 容	指 導 ・ 支 援	評価の観点	評価方法
学習内容の説明(1時間)	学習内容の説明を聞く。 意識アンケートを行う。	自分を見つめることの必要性や自分の考えを相手に伝える大切さを理解させる。	自己の生き方	質問紙
課題設定 (1時間)	自分のよさについて考える。 友達同士でお互いのよいところを見つける。	自分のよさについて考えさせる。 友達からの情報で新たな自分を発見させる。	主体的な態度 自己の生き方	観察法 自己評価
資料・情報の収集 (1時間)	「自分について表現したいこと」をまとめる。 必要な資料を集める。	趣味、特技、関心があるものなど、自分を表現したいことについて考え、まとめさせる。	主体的な態度 まとめる力	観察法 自己評価

体験・実習・ものづくり (2時間)	表現したい内容を、必要な資料を使って、3枚(A4板目紙)以内のパネルにまとめる。	写真や絵などの資料を使って、表紙やデザインを考えて、パネルを作成させる。	まとめる力	観察法 自己評価 作品分析
成果のまとめ(1時間)	伝えたいことを考えて、発表の内容をまとめる。	自分の考えを正確に伝えるためにはどんなことが必要かを考えさせる。	発表する力	観察法 自己評価
発表 (1時間)	自分について発表をする。 (グループ内で1名5分以内)	自分の作成したパネルを見せながら相手にわかりやすく発表させる。	発表する力	観察法 自己評価 相互評価
評価 (1時間)	活動を振り返り、再度自分を見つめる。	発表を通して、自分のよさや自分らしさを確認させる。	自己の生き方	自己評価 質問紙

評価の観点と評価規準について

評価の観点	評価規準	評価の観点	評価規準
学習への主体的な態度	・学習活動に意欲的に取り組んでいる。 ・毎時間の授業で目当てをもって取り組んでいる。	発表する力	・自分の考えをよく分かるように伝える。 ・自分の伝えたいことを工夫して発表する。
まとめる力	・自分の考えを、工夫してまとめる。 ・自分なりの方法で工夫して、パネルを作成する。	自己の生き方	・自分らしさ、自分のよさを見つける。 ・自分を振り返ったり、友達からの感想を聞いたりして、自分について見つめる。

着目生徒について

ア 着目生徒Dさんについて

おとなしく、やさしい性格である。自分を表現することが苦手だが、何事も積極的な気持ちで取り組もうと努力をしていて、部活動にも熱心に参加している。

自分を見つめることに考え悩み、発表することを見つけることができないでいるDさんに着目することにした。Dさんのポートフォリオや活動の様子から、その変容を考察してみる。

イ 着目生徒Dさんのポートフォリオと活動の様子について

【学習の内容】

【着目生徒Dさんのポートフォリオより】

【教師の指導・支援】

学習内容の説明 アンケート実施	「今の自分が好きかどうか分からない。自分の得意・不得意なところもよく知らない。自分の考えをまとめたり伝えたりするのが苦手である。」 (熱心に自分について考えていた。)	自分について考えさせ、今までの自分を見つめるように説明をする。
「自分のよさ」について考える	「手話が少しできます。花言葉が少しくわしいです。簿記に関心がある。生き物が好き。花が好き。」(自分のよさを見つけて書いていた。) 「自分のことがあまりわからなかった。」(授業後の感想)	「自分のよさ」を見つかる時の考え方やヒントについてアドバイスをする。
「自分について表現したいこと」をまとめる	「私は手話の指文字が少しできます。それは、ドラマで見てすごいと思い、本を見て独学を始めたから。」(「自分」について書く内容を決めることができた。)	どんな資料が必要なのか、どのようにまとめていくのかを考えさせる。
パネルの作成	「いっぱいテーマが頭に浮かんだのでテーマについて一番時間をかけて作った。」「もっと資料がほしい。」(書く内容が決まり、意欲的に取り組んでいた。)	資料や内容などの組み立て方についてアドバイスをする。
発表内容をまとめる	目標：「みんなが手話をやってみたいと思えるような発表をしたい。大きな声で発表する。」 「発表とは自分のことを知ってほしいためにあること。でも自信はあまりない」(発表の目標を立てて、少し前向きに臨んでいた。)	「自分の伝えたいこと」をわかってもらうようにするにはどうしたらいいのかを考えさせる。

発表	「ドキドキしていてあんまり言えなかった。」「みんなのものがすごくきれいで、もう少しきれいに書こうと思った。もっと絵を入れればよかった。」「大きな声で相手に話ができて少し自信がついた。」(発表後の感想)	発表時間,伝えたい内容,作品の見せ方などについてアドバイスをする。
評価	「自己評価をすることで,自分のことが分かるようになった。楽しく学習できたが,もっと自分のことを知りたいと思った。」(全体を振り返っての感想)	自分について考え,自分の力に気付かせ,自分を見つめさせる。

着目生徒Dさんの評価について

ア 自己評価と友達からの相互評価

評価の観点	活動を振り返っての自己評価	友達からの相互評価
学習への主体的な態度	<ul style="list-style-type: none"> 自分で必要だと思った資料をもっと集めたかった。 毎回の自己評価では自分のことがよく分かった。 全体的に楽しく取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表はとてもわかりやすかった。話し方もハキハキしていたので,何を言いたいのかよくわかった。
まとめる力	<ul style="list-style-type: none"> 時間がなかつたので,もっと努力してがんばりたい。 文字の大きさや色の使い方に気をつけて,工夫して作った。 	<ul style="list-style-type: none"> 声の大きさはちょうどだった。周りの人たちの声に負けていなかった。
発表する力	<ul style="list-style-type: none"> 大きな声で,相手の顔を見て発表できて,少し自信がついた。 自分の伝えたいことを相手にわかってもらおうと努力した。 	<ul style="list-style-type: none"> パネルでは,手話のことについて,どうして興味をもったのかをくわしく書いて欲しかった。
自己の生き方	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことがあまりわからなくて,少ししか考えられず,あまり書くことができなかった。 もっと自分のことが知りたいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に内容が少しあっさりしすぎていて,物足りないと思った。

イ 教師の評価

学習の様子を見たり,生徒の自己評価を通して話し合いをしたりしながら,総合的に判断して,着目生徒Dさんの評価を行った。

「自分を見つめる」ことでは,一生懸命に取り組んでいました。自分について考えてみるのにより機会になったと思います。必要な資料もたくさん集めてあります。手話について,興味をもってよく調べてあります。自分の名前を指文字で表し,工夫されています。これからも,手話についてもっと学び,いろいろなことを教えてください。

着目生徒Dさんの変容について

最初は,自分のことがあまりわからなくて,どのようにして自分のことを表現していいのが悩んでいた。「自分を見つめる」活動や発表を通して,「大きな声で相手に話ができて少しは自信がついた。」と自分の学びを振り返っている。パネルを作る段階では,最初はテーマに基づいて文章ばかりで書こうとしていたが,みんなの作品を見て参考にしたり,教員に質問をしてアドバイスをもらったりして,指文字や手話に関する絵を張り付け,見やすく作り直した。自分で考えて,色使いや構成を工夫し,相手にわかりやすく作ることができたのである。Dさんは,自分のことを見つめながら,ポートフォリオを振り返ったり,パネルを作ったりする過程で,自分の思いや考えを表現していくことの楽しさを少しずつ味わうことができたものとする。

実践を通して

ポートフォリオを取り入れた活動を振り返って,次のような点で有意義だったと考える。

第一として,自分の考えや思いを大切にしながら,自分を表現することの大切さに気付かせることができた。最初はあまり積極的な姿勢で生徒たちは取り組んでいなかった。ところが,「自分」のことについて書く内容が決まると,意欲的に活動し始めた。「どのようにしたらよりよいものができるのか。」「どうしたら相手に伝わるのか。」を,自分で考え,作品を完成させて,発表を行った。生徒たちは発表を終えて,自己表現の大切さを感じとっていたようだった。「自分を見つめる」ことで,自分のことについて考え,自分の力に気づき,自己理解を深めることにもつながったものとする。

第二に、生徒一人一人の学習状況や日常の授業では見られない生徒たちの優れたところを把握することができた。生徒の自己評価を通して、生徒の考えていることや気がついたことなどを読み取ることができ、教師のコメントにより学習活動を支援することができた。全員の生徒へのきめ細かい対応は無理ではあるが、考え悩んでいる生徒に対して、励ます肯定的な内容の記述を行うことができた。

(3) C高校における授業実践 - 「和菓子を作ろう」 -

活動の目標

(1) 学んだことをまとめて発表するという活動を通して表現力を身に付ける。
(2) 考え、調べ、作るなど、自分の課題の解決方法を工夫し、見通しを立てて活動を進めていくことで、自ら学ぶ姿勢を身に付ける。
(3) 実習を通して、和菓子の作り方の基本的な手順や食材の扱い方などの基礎知識を身に付ける。

「総合的な学習の時間」の試行として、1年次に1単位で実施している。4講座10コースの中から生徒に選択をさせ、全教員によるチームティーチングで展開している。

活動の流れ(全8時間)

活動の過程	学習内容	指導・支援	評価の観点	評価方法
学習内容の説明 (1時間)	学習内容の説明を聞く。 和菓子の基礎知識を学習する。	学習のねらいを説明し、和菓子に対する関心をもたせる。	意欲・態度	観察法
課題設定 (1時間)	本やインターネットを使って作りたい和菓子を決める。	材料や作り方なども確かめさせる。	意欲・態度 問題解決力	観察法 自己評価
資料・情報の収集 (1時間)	作りたい和菓子の材料や手順を本やインターネットで調べる。	時間や材料などを考えて、作りたい和菓子を工夫させる。	意欲・態度 問題解決力	観察法 自己評価
体験・実習・ものづくり (1時間)	和菓子を作る。	見通しを立て、手際よく時間内で作らせる。	問題解決力	観察法 自己評価 相互評価
成果のまとめ (2時間)	作った和菓子のよさを、1枚の紹介ボード(B4板目紙)にまとめる。	見やすくわかりやすいように紹介ボードを工夫して作成させる。	まとめる力	観察法 自己評価
発表 (1時間)	作った和菓子について、紹介ボードを使って発表する。(1人3分以内)	伝えたいことをわかりやすく発表できるように考えさせる。	発表する力	観察法 自己評価 相互評価
評価 (1時間)	全体の活動を振り返り、自己評価を行う。	全体を振り返って、自分の活動を評価させる。	意欲・態度	自己評価

評価の観点と評価規準について

評価の観点	評価規準	評価の観点	評価規準
学習への意欲的な態度	・学習活動に意欲的に取り組んでいる。 ・見通しを立てて主体的に取り組んでいる。	まとめる力	・見やすく紹介ボードを作る。 ・伝えることを工夫してまとめる。
問題解決力	・限られた条件で自分の作りたい和菓子を見つけ、その手順を考える。 ・材料や分量を考えながら、工夫して和菓子を作る。	発表する力	・聞き取りやすく、伝える内容が分かるように発表する。 ・自分の伝えたいことを工夫して発表する。

着目生徒について

ア 着目生徒Eさんについて

何事にも意欲的で、自分から進んで行動しているが、自分の考えを文章で書いたり発言したりすることは苦手である。

和菓子作りには興味はあるが、初めての「団子作り」に挑戦をしようとしているEさんに着目することにした。Eさんのポートフォリオや活動の様子から、その変容を考察してみる。

イ 着目生徒Eさんのポートフォリオと活動の様子

【学習の内容】	【着目生徒Eさんのポートフォリオより】	【教師の指導・支援】
学習内容の説明 和菓子の基礎知識	講座選択の理由：「桃の和菓子を作ってみたかったから。」（「練り切り」に興味をもち、熱心に和菓子についての学習をしていた。）	和菓子の基礎知識について意欲的に学習をさせる。
和菓子の歴史や種類をインターネットで調べる	目標：「インターネットで迷わずに調べる」 「インターネットの便利さについて知った。次回は団子の新しいタレをさがしてみたい。」（コンピュータで積極的に調べていた。）	必要に応じてインターネットでの調べ方についてアドバイスをする。
作ってみたい和菓子を決める	目標：「タイムスケジュールを頭の中で考える」 「団子、おはぎ、大福などについて調べた。できれば自分流にアレンジして団子を作ってみたい。」（作る和菓子を早く決めることができた。）	工夫して和菓子を作るように、考えさせる。
作る和菓子の材料や手順を調べる	目標：「スケジュールを完璧につくる」 「和菓子の分量や作り方の手順など、よく分かった。次回は、時間に気を付けて作ろうと思う。」（次回の和菓子作りを楽しみにしていた。）	実際に作る場面をイメージして手順を考えさせる。
和菓子を作る	目標：「おいしく作ること」 「少し時間がかかったが、作ることができた。まあまあおいしかったが、粉っぽかった。」（自分の失敗したところを考えていた。）	時間内に作れるように、アドバイスをする。
紹介ボードの作成	目標：「紹介ボードを作ること」 「少し時間がかかりすぎた。マジックが太すぎて、見た感じが汚くなってしまった。」	工夫したところや苦労したところなどを考えさせる。
発表	目標：「おいしさを伝えること」 「思ったより時間が短く感じた。自分の失敗したところを報告できたが、その他の伝えることをしっかりとできなかった。」 （少し自信がなさそうに発表していた。）	紹介ボードの使い方や発表の仕方についてアドバイスをする。
評価	「和菓子を作ることが一番楽しかったが、レシピがすべて正しいとはかぎらないと分かった。資料をファイルしていくことはよかった。」	活動全体を振り返らせ、自分の成果を見つめさせる。

着目生徒Eさんの評価について

ア 自己評価と友達からの相互評価

評価の観点	活動を振り返っての自己評価	友達からの相互評価
学習への意欲的な態度	・インターネットで初めて調べてみて、その便利さが分かった。 ・自分なりに努力して取り組むことができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・声も話す速さも聞き取りやすかった。 ・話したことがわかりやすかった。 ・失敗したところや反省点などをよく自分で見つけていた。
問題解決力	・作りたい和菓子を早く決めて、作り方の手順もよく考えた。 ・和菓子を自分で工夫して作ることができた。	
まとめる力	・時間以内につくることができたが、少し雑になってしまった。 ・紹介ボードは、太いペンで書いてしまい、見やすく作れなかった。	
発表する力	・うまく伝えることができなかった。 ・事前の準備が大切だし、発表ではもっとまとめて伝えるべきだった。	

イ 教師の評価

授業に取り組んでいる様子を見たり、生徒の自己評価用紙を組み合わせたりしながら、総合的に判断して、着目生徒Eさんの評価を行った。

常に意欲的に取り組んでいました。インターネットは初めて利用したということですが、必要な情報を上手に取捨選択していました。2種類のレシピを組み合わせるアレンジしたものを考えるなどよく工夫していました。実習では、限られた

時間の中，1人で2種類の和菓子を作ることができたのは，全体を見通す力と手際のよさがあったからでしょう。毎回の授業の振り返り，自分の活動を反省し，次に生かしていく力をもっています。

着目生徒Eさんの変容について

毎回の授業では，自分の目標をしっかりと立てて意欲的に取り組んでいた。初めて使うインターネットでも情報をうまく取捨選択しながら，自分で工夫して，作りたい和菓子を決めることができた。実習でも，2種類の団子を手際よく作り，片付けも責任をもってやっていた。しかし，紹介ボードや発表などの自己表現の授業となると，「見やすく作れなかった。」「うまく伝えることができなかった。」と自己評価していた。ポートフォリオを使って今回の体験を振り返ることで，「自分の考えや伝えたいことを表現するには，どうしたらよいか。」について考え，発表の仕方について反省をしている。発表の準備の必要性や表現することの大切さを自分なりに理解できたものとする。

実践を通して

ポートフォリオを取り入れた活動を通して，次のような点で有効であったと考える。

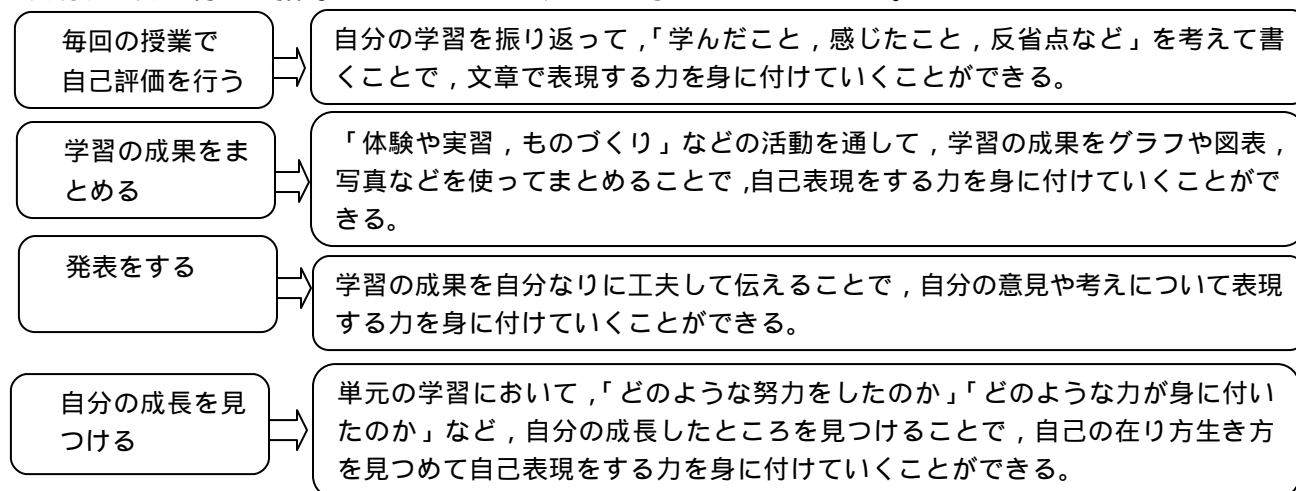
第一に，「自分の活動を振り返って考える」，または「それを表現する」ということの難しさに気付かせることができた。和菓子を作るという活動では，どの生徒も意欲的に取り組んでいたが，発表では，自信のない様子で，活動の成果を報告していた。人前で発言することに慣れてない生徒が，わずかな内容でも発表することができ，自分の気持ちを伝えられたことは大きな意味があったように感じる。相手に伝えるために，自分の言葉で考え，少しでも説明することができたという自信をつけてあげることが大切であると分かった。

第二に，生徒一人一人の学習状況を把握していきながら，肯定的な支援を行うことができた。毎回の授業で，一人一人の活動を細かく観察し，生徒の考えていることや活動の進捗を理解していくのは難しいことである。しかし，自己評価を蓄積していき，教師のコメントを書いていくことで，生徒の意欲や関心なども読み取れるようになってきた。個々のポートフォリオを見ていくことで，普段では分かりにくい生徒の一面を知ることができたものとする。

研究のまとめ

1. 自ら考え，表現する力を育てる指導について

「自ら課題を見つけ，主体的に追究する」という活動を展開し，「学習の成果を，自ら反省し，振り返って，自己評価をする」という活動を行ってきた。これらの取組は，次のような観点で，自ら考え，表現する力を育てる指導につながっていくものとすることができる。



表現活動の場を設定し、「自分とは何か」「自分は何をしたいのか」ということを考えたり、表現したりする機会を多くもつことが必要であることが分かった。自分を見つめ、自分の成長を考えることで、自己評価をする力を身に付け、さらに、自己表現をする力を育てていくことにつながるものと考ええる。

2. ポートフォリオを取り入れた活動を通して

(1) ポートフォリオの有効性

ポートフォリオを取り入れて、次のようなことに有効であることが分かってきた。

生徒の側	<p>自己評価を毎回行って、教師の適切なコメントを受ける過程を繰り返すことにより、少しずつ自分の活動を振り返ることができるようになってきた。</p> <p>活動全体を振り返ることにより、自分自身の成長を見つめることができるようになってきた。学習の目的や内容の説明を理解し、授業を進めていくことで、自分の学習の見通しを立てて意欲的に取り組めるようになってきた。</p> <p>学習の過程を振り返ったり、プリント類を整理したりするのに役立った。</p> <p>長期的に継続してポートフォリオを取り入れることで、自己評価用紙に自分の考えを具体的に記述することができるようになってきた。</p>
教師の側	<p>教師のコメントを通して、生徒一人一人に支援を行い、個に応じた指導ができた。</p> <p>学習の状況や活動で見えにくいところなどを把握でき、生徒の努力やよさが見えてきた。</p> <p>教師自身の授業の振り返りに役立った。</p>

(2) ポートフォリオの留意すべき点

ポートフォリオを取り入れた活動を振り返り、留意しなければならない点についてまとめてみた。

ポートフォリオの意味や活用方法を生徒に理解させて取り組むこと。

学習の記録やプリント類などを時系列に保存していきながら、自己評価をすることにより自分の学習に生かしていくことの必要性を説明して、活動を行った。この活動が定着していかないと、必要な資料がファイルされなかったり、学習の成果を振り返ることができなかつたりして、ただファイルに保存していくだけの活動となってしまう。ポートフォリオの活用方法を理解させて取り組むことが大切だと分かった。

自己評価では、自分の学習活動をしっかりと振り返らせること。

生徒の自己評価用紙には、「楽しかった」「積極的に取り組んだ」などの授業の感想を書いただけのものがあり、「何を学び、何を反省したのか。次回の課題はどんなことか。」などについて、自分で考えて評価できるように指導していく必要性を感じた。普段から生徒に、学んだり、考えたり、気がついたことなどを書かせて、自分の学習活動をしっかりと振り返らせることが大切であると分かった。

評価をする時間を十分に確保すること。

自己評価や相互評価をする時間、活動全体を振り返って生徒一人一人と評価について話し合う時間については、十分に確保して行うことができなかった。ポートフォリオを使って、学習の成果を評価し、「自分の成長をどのようにとらえているのか」について、生徒に考える時間を設定していくことは大切なことである。学習の過程で、評価をする時間を十分に確保しながら、活動を進めていくことが必要である。

(3) 評価についての考え方

ポートフォリオを取り入れながら、自己評価や相互評価、教師の評価などを活用して、多面的に評価するという方法を行ってきた。今回の評価方法を通して、「評価」というものを、次のような考え方でとらえることができる。

自己評価：「自分は何ができるのか、自分の課題は何であるのかを自分で見つけること。」

自己評価には、「これだけの力が身に付いたという証拠を示すこと」が必要である。そのために、ポートフォリオで自分の活動を振り返り、身に付いた力の証拠となるものを集め、自分で説明できるようにしていくことが大切である。

相互評価：「お互いに自分の考えや意見を伝え合い、それを自分の学習に生かしていくこと。」

相互評価では、「なぜ、そのように評価できるのか、評価した理由を明確にして相手に伝える」ことが必要である。お互いの活動のよさや問題点、改善点などに気付いたり、確認し合ったりして、次の活動に生かしていくことが大切である。

教師の評価：「生徒に、何ができ、何が課題であることを示すこと。」

生徒の自己評価を支援する役割となる。いつ、どの場面で、どう判断したのかなどの評価資料をもとにして、生徒の学習状況を把握しながら、進歩したところを見取っていく必要がある。

今回の研究を通して、生徒の自己評価や相互評価、教師の評価などの多様な評価方法を組み合わせることで、生徒一人一人のよい点や成長した状況がより一層分かるようになった。

3. 今後の課題

本研究協議では、授業実践を進めていく過程で、ポートフォリオを取り入れた活動の有効性を明らかにしていくことができた。また、生徒が主体的に追究していく学習過程を通して、「自ら考え、表現する力を育てる指導や評価」についての方向性が見えてきた。今後の課題としては、次のようなことが挙げられる。

自己評価用紙の内容について工夫をする。

生徒が自分の活動を振り返り、次の学習につなげていくことができるように、評価項目の内容や記述方法、時間の設定の仕方などについて、さらに工夫をしていきたいと考えている。

評価の観点と評価規準を生徒とともに設定する活動を取り入れる。

学習に対する目的意識を明確にし、評価の観点や評価規準を確認してから活動を展開すると、意欲的な態度で取り組む生徒たちの姿を見ることができた。今後は、生徒とともに評価の観点や規準を設定する活動を取り入れ、自分の学習を振り返る力や自分を表現する力を育てていきたいと考えている。

本研究を進めるに当たり、貴重なご指導、ご助言をいただきました工藤文三先生、また、研究当初からご親切にご指導、ご助言いただきました総合教育センターの先生方に心から感謝するとともに、実践研究授業等で、ご協力、ご支援をしてくださりました川崎市立高等学校の校長先生方、教職員の皆様方に、心よりお礼を申し上げます。

【参考文献】

- | | |
|-----------------------------|-------|
| 『高等学校学習指導要領解説 - 総則編 - 』文部省 | 1999年 |
| 安藤輝次『ポートフォリオで総合的な学習を創る』黎明書房 | 2002年 |
| 大隅紀和『総合学習のポートフォリオ評価』黎明書房 | 2002年 |
| 鈴木敏恵『ポートフォリオで進路革命！』学事出版 | 2002年 |

【指導助言者】

- | | |
|---|-------|
| 国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部総括研究官
(川崎市総合教育センター専門員) | 工藤 文三 |
| 川崎市立高等学校長会 会長(川崎市立橘高等学校長) | 佐々木賢司 |
| 川崎市教育委員会学校教育部指導主事 | 松本 芳弘 |
| 川崎市総合教育センター研修指導主事 | 篠原 満 |